

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	令和5年度 第1回 近江八幡市総合教育会議		
開催日時	令和5年6月8日（木） 10時00分～11時30分		
開催場所	岡山コミュニティセンター 2階 多目的ホール (近江八幡市加茂町3818-1)		
出席者 ※会長等◎ 副会長等○	出席者（敬称略） 市長 小西 理（◎） 教育長 大喜多 悦子 教育長職務代理者 久家 昌代 教育委員会委員 安倍 映子、西田 佳成、大更 秀尚 傍聴者 1名		
次回開催予定日	未定		
問い合わせ先	所属名、担当者名 総合政策部企画課 辻 電話番号 0748-36-5527 メールアドレス 010202@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録 ・ 要約	要約 した 理由	—
内 容	別紙のとおり		

担当課⇒総務課

1. 開 会

事務局

皆様、おはようございます。

定刻となりましたので、ただいまから、令和5年度 第1回 近江八幡市総合教育会議を開催いたします。

本日、傍聴者の方がいらっしゃいますので、傍聴される方は、入口に掲示している遵守事項についてお守りいただきますよう、どうぞよろしく願いいたします。本日の会議は、11時30分を終了予定とさせていただいております。限られた時間とはなりますが、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、開会にあたりまして、近江八幡市長がご挨拶を申し上げます。

2. 挨拶

市 長

皆様、おはようございます。令和5年度 第1回 近江八幡市総合教育会議の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。教育委員の皆様方、関係者の皆様方、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

この会議は、本市における教育行政のあるべき姿や教育課題を共有するため、平成27年度より、市長と教育委員会との意見交換の場として開催しているものでございます。

私自身は、今の教育に対して、非常に大きな問題意識というか課題意識を持っております。皆様ご存知のように、日本の置かれている状況というのは悲惨な状況でございまして、外国人労働者が一番来たい国は日本ではなく、既に、中国や韓国になっておりますし、かつて、日本がナンバーワンと言われたような時代は、もう遠い過去になったわけでございます。

そういう中で、実際、根本となる「教育」という部分でございしますが、地域を含めて、国も含めて、そのベースになるものが「教育」というものでございます。こういう会議が持つ意義、役割というのは、そういうものの重さや重要性というものが非常に大きなものであろうかと思っております。

国がどこまで考えてくれているのかよく分かりませんが、我々は、この近江八幡という地域をしっかりと考えていかないとはいけませんし、子どもたちのためにも要望していかないとはいけません。また、今の子どもたちがこのまちを作っていないといけない、そんな状況だと思っております。どうか皆様、ここで知恵を絞り、ご意見等をいただければと思っております。どうかよろしく願い申し上げます。

本日は、1回目の会議ということで、先程下で「はちっこぶっく号ミニ」と岡山紫雲こども園の子どもたちの反応などを見学し、自分もおはなし会を聞きましたけど、なかなか上手でした。おはなし会、とても上手で感心しました。チュンチュンなど、自分ではうまく言えませんが、上手に使い分けていただきました。ガーガーなど、大変感心したところございまして、これも、本日のテーマに関わる「読書」であり、子どもたちの読書ということでございます。感想なども含め、考える一つの題材として取り上げていただければと思っております。本日、委員の皆様、関係する部課の皆様も集合していただいているということなので、ぜひ活発なご意見をいただければと思っております。

関係課については質問にお答えするというございまして、場合によっては番外ということで、何か言いたいことがあれば、ご発言いただければと思っております。大変限られた時間ではございますが、有意義なものとなりますように、どうか皆様方のご協力をお願い申し上げまして、簡単でございますが、開会にあたりましての挨拶とさせていただきます。どうかよろしく願いいたします。

3. 議 題

事務局

本日会議にご出席の皆様につきましては、出席者名簿をお配りさせていただいております。委員の皆様につきましては、昨年度からの引き続きということで、ご紹介は省略させていただきたいと思っておりますので、ご了承いただきたいと思っております。

また、本日の議題の関係課としまして、幼児課、学校教育課、生涯学習課、図書館の皆様は、それぞれご出席をいただいております。事務局としましては、私のほか、企画課、そして教育委員会から、教育部長、教育総務課の皆様にもそれぞれご出席をいただいております。どうぞよろしく願いいたします。

次に、本日の会議ですが、事前に、資料を配布させていただいております。この資料をもとに議事を進めさせていただきたいと思っておりますが、もし資料の必要な方がいらっしゃいましたら、事務局の方にお申し出ください。

それでは、早速ですが、次第に従いまして、議事に入らせていただきたいと思います。本日の議題は、(1) 子どもの読書活動について、(2) その他となります。それでは、議題(1)につきまして、生涯学習課から説明をしていただきたいと思います。その後、関連の資料もございまして、各課から順次ご説明をしていただきます。質疑につきましては、各課の説明が終わり次第、まとめてお受けしたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、生涯学習課より、よろしく願いいたします。

(1) 子どもの読書活動について

本日は、1点目、国や県の子ども読書に関する動向についてと、2点目、第2次近江八幡市子ども読書活動推進計画について、現在進行中の計画の概要と進捗についてお伝えさせていただきます。

国・県の動向ですが、令和5年3月に策定されました、第5次「子ども読書活動の推進に関する基本的な計画」の中から、ご紹介していきたいと思います。資料はございませんので、口頭で説明させていただきます。

はじめに、子どもの読書に関する状況ですが、国は、第6次「学校図書館図書整備等5か年計画」というものを、令和4年度から令和8年度にかけて行うということになっております。これを受けまして、家庭や地域では、図書館の数が過去最高の状態となっております。そして、学校も、司書教諭の数、学校司書の配置数がともに増加している状況でございます。

しかしながら、子どもの読書を取り巻く現状としましては、不読率の上昇があります。不読率とは、1か月の間に全く本を読まなかった子の割合です。文部科学省は、この不読率の上昇については、新型コロナウイルスの感染拡大による全国一斉臨時休校の影響、ICT環境の整備、体験活動の機会の減少が理由として考えられるのではないかと挙げております。このように、新型コロナウイルスの感染拡大による様々なことが、子どもの読書に影響を与えている可能性があるのではないかと考えられています。

この不読率ですが、国の調査の結果が出ております。1か月間に本を読まない子どもの割合ですが、令和4年度、国では、小学生6.4%、中学生18.6%でございます。これに対しまして、市では、小学生6.3%、中学生14.5%と、国の結果と近い数字であり、あまり差はございません。

関連しまして、不読率についてですが、5月における1か月の平均読書冊数の調査がございました。令和4年度、国では、小学生は5月の1か月に13.2冊、中学生は4.7冊読んだという結果が出ております。これに対しまして、市では、小学生7.0冊、中学生2.8冊と、国の約半分の冊数という結果になっております。このことから、本市の子どもたちは、国と比べ、本を読まない、0冊の子どもは同数程度ですが、たくさん本を読む子は少ないという傾向が考えられます。

続きまして、国が考えている、子どもの読書の推進体制についてです。基本方針ということで、目指す子どもの姿が次のように書かれています。「社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となっている時代において、子どもたちは、自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることが求められる。」このような

ことを、国は、子どもの目指す姿として挙げております。

そして、推進体制としまして、文部科学省から4つの視点が挙げられています。1.不読率の低減、2.デジタル社会に対応した読書環境の整備、3.多様な子どもたちへの読書機会の確保、4.子どもたちの視点に立った読書活動の推進です。また、この体制に関しまして、学校や図書館、その他関係機関及び民間団体との連携を強化することが強調されております。

続きまして、2点目、本市の第2次子ども読書活動推進計画の概要と進捗についてお伝えします。現在、読書状況調査というものを実施しております、就学前の4歳児の保護者、小学校2年生、6年生、中学校2年生、高校2年生に大規模なアンケートを実施しております。6月9日（金）が締め切りで、現在実施中という状況です。

私立の保育園にもアンケートに協力してもらいたいということで、4月上旬に、アンケートの協力についてお願いに行きました。各園を回らせていただき、私立保育園の読書の状況について聞き取ったものが、お手元の資料で、その際、読書への意識の高まりというものを、非常に強く感じさせていただきました。

1つ目は、読み聞かせを非常に大事にされているということ。そして、家読（うちどく）という観点の浸透がある、ということを感じました。このように、教職員による読書推進の理解が進んでいるということは、これまで、幼児課と図書館が様々な事業の中で取組をされてきたことが、功を奏していると感じました。これらをもとに、今年度、第3次近江八幡市子ども読書推進計画の策定に向け、当課で動いておりますので、皆様のご意見をいただき、より良いものにしていきたいと思っております。

事務局

続きまして、A3の資料「子どもの読書活動に係る現状及び今後の課題・具体的な取組(案)」に基づきまして、各所属で把握されている現状などについて、順にご説明をお願いしたいと思います。

それでは、幼児課より、よろしく願いいたします。

幼児課

事前に報告させていただいているものをもとに、お話させていただきたいと思っております。はじめに、現状についてですが、各施設では、毎日、保育所の中で、保育士がクラス全体に読み聞かせを行っています。また、保育室や園内で、ほっこりしたスペースで気持ちを落ち着かせて絵本が見られるように環境を工夫したり、子どもたちが興味を持っている絵本、その時々に関心を持った絵本を置いたり、その季節に応じた絵本を取り出しやすいように置いておくなどしています。

保育士とスキンシップを図りながら、個別に本の読み聞かせをしてもらうことで、心の安定にも繋がっています。どの子どもも絵本の読み聞かせが大好きで、保育士に読んでもらうことをとても楽しみにしています。本日、読み聞か

せをしていただいたような様子が、普通のクラスでの読み聞かせの様子とも繋がっていると思います。

各施設での絵本環境がより良いものとなるように、それぞれの園の絵本環境をデータ化し、全施設で共有も行いました。公立園では、地域の方やボランティアの方に読み聞かせをしてもらう機会を作っている施設もあります。保育士とは違った人に読み聞かせをしてもらう貴重な機会となり、色々な人の温かさに触れ、人と関わる楽しさを感じる機会にも繋がっています。

本日のように、図書館とも連携を取りながら、はちっこぶっく号ミニをどの園でも積極的に活用いただいています。園とは違った場所で絵本に親しめることも、子どもたちにとっては、凄くワクワク感があり、楽しみになっています。

そして、家庭でも読み聞かせをしてもらえるようにと、公立園の全園で絵本の貸出をしています。民間園では様々で、昨年度までは貸出をされていない園もありました。令和2年度から3年間、絵本に囲まれて育つ子ども推進事業で、各施設に絵本を購入しました。また、株式会社尾賀亀様や国際ソロプチミスト近江八幡様から、毎年、絵本の寄贈をいただいていることで、蔵書数の増加に繋がっています。

今後の課題と具体的な取組についてですが、どの施設においても経験の浅い保育士が多くなっています。その中で、どのような絵本を選んだら良いのか、そして、読み方などの指導のため、幼児教育センターの職員による出前講座を、今年から実施しています。ほとんどが民間園ですが、利用していただいています。

家庭への持ち帰り用の絵本の貸出については、各施設で絵本の貸出の頻度に差があり、特に、民間園では、貸出を実施していない園もありました。そのため、今年度、絵本に囲まれて育つ子ども推進事業で、各施設、年間3回以上の貸出をするという条件を設定させていただいています。民間園に負担のない形でできるよう、絵本の貸出を始めていただいています。保護者の読み聞かせに対する意識には差が大きいため、子どもが興味を持っている絵本を紹介したり、個別に声を掛けたり、保護者向けに読み聞かせをしたりするなど、保護者の意識を高めるための工夫が必要であると感じています。

今年度は、事業の継続で、各施設に40万円の予算が配分されているため、蔵書数の更なる増加に繋がることとなります。子どもたちが「読んでみたい」「絵本が好き」と思えるような、より良い環境の工夫に取り組んでいきたいと考えています。

学校教育課

このA3のプリント（子どもの読書活動に係る現状及び今後の課題・具体的な取組（案））の後に、別添1というものがございます。こちらの方をご覧いただきたいと思います。

学校では、読書活動や図書館の利活用を含めまして、図書館教育と呼んでいます。学校図書館は、一般的には、図書室という言い方をされることがありますが、正確には、学校図書館法という法律に基づいて設置しております。この法律で「学校図書館を置く」となっており、学校図書館という呼び名が正式名称になっています。

その上で、我々は、学校図書館教育ということで、充実を図っております。先程も説明がありましたが、我々は、子どもにとって続ける読書、学べる読書、つながる読書、心遊ばせる読書、この4つをキーワードとしております。その中核を担う施設として学校図書館がありますが、学校図書館の機能としましては大きく3つあり、読書センター、学習情報センター、それから、最近よく言われているのが、子どもの居場所です。これらの視点で、学校図書館を充実させたいと考えております。

学校図書館ですが、一番の大きな課題は、図書館という施設であるものの、なかなかそこに常駐する者がいないということです。法律によって、司書教諭を配置するようになってはいますが、定数内教員であり、学級担任であったり授業であったり、そうした通常業務をしております。なので、なかなかそこに常駐する者はありません。そうした全国的な問題がありましたので、平成26年に、学校司書を置くように努めるという法律改正がなされ、現在、市内に小・中学校が16校ありますが、5名の学校司書を配置させていただいております。16校に対して5名ですので、1人が3～4校程度を兼務することで運用しております。その甲斐もあって、日にもよりますが、常駐できる職員を配置することによって、学校図書館の充実が進んでいる状況であります。

その上で、先程もありましたが、なかなか子どもが読書の方に向かない状況が増えている課題があります。もちろん、本が好きな子ども、図書館へ行くことを楽しみにしている子どももいますが、絶対数として少なくなっている状況があります。そうしたことも踏まえまして、我々としましては、学校図書館に子どもが読みたい本がある状況を作っていきたいと考えています。そして、常駐できる学校司書を増員し、図書館の充実を図るとともに、授業の中でも、学校図書、図書館を活用した授業を充実させていきたいと考え、今年度も研究指定校を設置し、学校と学校教育課で協働し、その方策を協議しているところでございます。

生涯学習課

先程、お話をさせていただきましたが、生涯学習課が、アンケート調査の依頼のため各民間園に聞き取りをさせていただいた際、家読（うちどく）というキーワードがかなり浸透しておりました。家読（うちどく）を推進するために、絵本の持ち帰りが積極的に行われており、保護者の家読（うちどく）に対する意識がかなり浸透していると感じております。一方で、意識の二極化ということも感じました。家庭では、動画の視聴や習い事が優先され、読書の順位が低

くなっており、保護者の読書に対する関心が子どもにかなり影響していると、感じている園所が多くございました。

年齢が上がるにつれ本離れが顕著であることに反して、どの園でも、就学前の子どもはとても絵本が好きで、先生による絵本の読み聞かせを楽しみにしているとのことでした。更に、ブックスタートや、就学前、小学校、中学校への読書意欲の継続、接続にも工夫が必要であると感じました。そのことを踏まえて、生涯学習課では、放課後の子どもたちの居場所での読書、本を手にする環境の充実を図り、そのために、子育てサロンなど、保護者に集まっていただく場での絵本や本の紹介を進めていきたいと思っております。

また、子どもセンターに来る小学生や中学生を対象とした読み聞かせの場を、今後も生涯学習課の指導主事等の協力を得ながら進めていきたいと思っております。そして、ブックトーク等の研修会について、PTA大会等で保護者に啓発していくことも必要であると感じております。保幼小の接続カリキュラムの中に、読書についての接続も加えていけたらと感じているとともに、発達段階やライフステージごとに関わる、読書の生涯年表というものを作ることができればと考えております。

図書館

皆様に見学いただきまして、先程はありがとうございました。資料は何枚かにわたってございます。順番にご説明させていただきます。図書館の児童サービスの中でも、主たる事業の現状と課題を挙げさせていただいております。

1 ページ目は、ブックスタート事業です。4 か月健診時に、絵本1冊と絵本のリスト、図書館の利用案内などをブックパックに入れ、渡しております。その際、お父さんやお母さんに、「赤ちゃんの目を見て優しい言葉がけをしてくださいね」「スマホに子守りをさせないでね」というメッセージも一緒にお伝えしています。また、平成29年度から、その場で赤ちゃんの名前で図書館の利用カードを作ってもらっています。

1 ページの下の表は、市内の0歳児から3歳児の登録率の推移です。赤ちゃん連れのお母さんにとって、赤ちゃんを抱いて、図書館で利用カードを作るということは、非常に大変なことです。健診の場でカードを作っただけであれば、図書館に行きやすくなるのではないかと思います。特に、赤ちゃん向けのおはなし会への参加を促し、お母さんたちの交流の場となるようにしていきたいと考えています。

続いて、2 ページ目です。全域へのサービスの位置づけとして、平成29年度から武佐学区の読書支援を実施しました。きっかけは、武佐小学校に、ブックトークとして本の紹介に行った際、図書館に行きたくても親が連れて行ってくれないという子どもがいて、親の興味・関心に関係なく、どの子にも等しく

本を読める環境を作ることが必要だと考えたことです。本を読む姿勢を作るには、やはり、小さい頃からの読み聞かせが大事であると考え、主に武佐こども園を中心に実施しました。

2ページの下表にあるように、5年間、0歳児から5歳児まで途切れることなく、おはなし会の実施と個人貸出を行いました。最終目標として、小学校へ行く前に、先程職員の語りで聞いていただいた「こすずめのぼうけん」、ストーリーテリングと言いますが、このストーリーテリングで15分～20分のお話を集中して聞けることを目標に掲げました。以前、教育委員も視察されましたが、3歳児で5分間のストーリーテリングを十分楽しめる状態になりました。

3ページ目は、武佐学区の結果です。0歳児から6歳児の1人当たりの貸出冊数について、計画前の平成28年度は1.0冊だったものが、計画終了時の令和3年度は14.0冊。計画終了後も、移動図書館車で個人貸出とおはなし会をしていますので、令和4年度は、1人当たり16.0冊となりました。こども園で身についた読書習慣を、小学校でどのように継続・維持するかが課題となっています。

4ページ目に移りますが、こうした武佐学区の読書支援の結果から、膝元まで本を届けることが重要であると考え、令和3年度から、馬淵幼稚園（現こども園）、馬淵小学校、北里幼稚園、北里小学校、武佐こども園、武佐小学校、老蘇こども園、老蘇小学校へ巡回し、令和4年度からは、島小学校、北里保育園へも巡回しております。

5ページ目のサービスポイント別の貸出について、令和4年度は、北里小学校は巡回が2回中止になったことと、八幡西中学校は、校外学習や修学旅行で、2・3年生が不在ということがあり、貸出数が減少してしまいましたが、全体的には、前年度比129.6%でした。

6ページ目は、図書の購入についての資料ですが、村松報恩会様からいただいた130万円のうち、近江八幡図書館に100万円、安土図書館に30万円を配分して、主に図鑑や事典を購入しています。今年度は、近江八幡管工事協同組合様から10万円いただきましたので、大型絵本や紙芝居を購入予定です。今年度の児童図書予算は、寄贈分を入れて約970万円を予定しております。

ここに書いておりませんが、県立図書館の資料による児童書の更新率は、当館は、4.7%という数字であり、令和3年度の児童書更新率としては、県内で一番高い数値となりました。この更新率というのは、新規に受け入れた児童書の冊数をその年度末の児童書の蔵書冊数で割った数値です。児童書の蔵書がどれほど新しくなっているか、どれほど棚が新鮮であるかということを示す数値であり、令和4年度は、まだ結果が出ていませんが、計算すると4.9%でした。

引き続き、図書館、はちっこぶっく号、はちっこぶっく号ミニ、それぞれの蔵書を考え、利用者にとって魅力あるものとなるように努めていきたいと考えております。

また、別添5「こどもとしょかん」検討事業というカラー刷りになっている資料ですが、これは県の事業であり、知事が市町の図書館と連携し、「こどもとしょかん」を充実するようというので、現在、サービス委員会というものを作り検討しております。参考として、添付させていただきました。

事務局 それでは、意見交換に入る前に、ただいまの説明に関しまして、ご質問やご確認されたい事項等がございましたら、まずお願いしたいと思います。

委 員 質問させていただきます。各課ありがとうございました。

一つ目、小学校・中学校の学校図書館というのは、ほとんど持っておられると思いますが、就学前については、どれぐらい持っておられるのか。園によって、各年齢によっても違うと思うのですが、園で持っておられる図書室、絵本室と言いますか、いくつぐらいあるのでしょうか。

生涯学習課が、今年5月に私立園にアンケートをされたと言っておられましたが、公立園ではアンケートを取られないのか。あるいは、このアンケートをされたことで、課題が集約されたのであれば、次にどういった形で指導をされるのか。幼児課に行くのか、学校教育課に行くのか。生涯学習、幼児環境について、どういった役割分担で、どういった現状、課題、それから指導という流れになっているのか、教えていただきたいと思います。

それから、学校教育課より説明があり、司書は定数外ということで、なかなか常駐で全校に配置されていないわけですけど、目標は、あくまでも全校に常駐するということだと思います。その目標値、いつ頃までに司書を置こうとされているのか、この3点について教えていただきたいと思います。

幼児課 一つ目の質問について、就学前施設に、図書館のような絵本コーナー、絵本室がどれぐらいあるかということですが、各公立幼稚園や空き部屋がある園においては、空き部屋をうまく絵本室にし、子どもたちが本当に読みたいという感じの部屋になるよう工夫し、絵本室として使用しております。学校で言えば、図書館のような形になるのかと思います。

ただ、保育所になると、やはり子どもが満員でいますので、なかなか、そうした空き部屋というのが取れないので、廊下の一画など、スペースがあるようなところをうまく利用しながら、絵本コーナーという形で使用し、なかなか図書館のような部屋を作ることができてない現状ではあります。

委員	<p>空き部屋が年度によってはあつたりなかつたりと思うので、今年はある、今年はないといった感覚ですね。</p>
幼児課	<p>今ある園は、ずっとあります。年によって、あつたりなかつたりということは、今のところない感じです。空き部屋がある園は、いくつも空き部屋があります。なので、そこにある、一番子どもたちが使いやすい部屋を、うまく絵本室に作り変えている形になります。</p>
学校教育課	<p>続きまして、先に、学校教育課にご質問いただいた、学校司書の配置目標でございますが、生涯学習課が策定した、第2次近江八幡市子ども読書活動推進計画がお手元にあると思うのですが、その24ページをご覧くださいと、2.指標設定と調査目標において、2023年度、つまり今年度末の目標としまして、50%としています。16校ありますので、8名を目標としておりますが、現状は5名というところでございます。</p> <p>学校教育課としましては、16校で16名を目指すのではなく、2校で1名の学校司書がいれば、学校とうまく連携しながら、学校図書館の充実に繋がるのではと考えておりますので、目標としましては、8名を目指していきたいと考えております。国の交付税措置につきましても、本市で運用している雇用状況では8名程度の予算規模で措置されている状況もありますので、そこを目指していきたいと考えております。</p>
生涯学習課	<p>生涯学習課に質問がございました件につきまして、就学前の4歳児の保護者へのアンケートにつきましては、公立園についても依頼をしております。公立園につきましては、校園長会の方で依頼させていただいております。</p> <p>それから、アンケート項目やアンケート結果の検討につきましても、子ども読書活動推進委員会というものを毎年開催しておりますので、今回行うアンケート項目についても、そこで検討をしていただきました。また、結果についても、そこで検討していただきます。委員として、幼児課や学校教育課からも出席いただいております、図書館からも出席いただいております。また、市内の色々な学校からも出席いただいておりますので、そこでの検討を踏まえて、みんなで検討するという形で進めていきたいと思っております。</p>
市長	<p>先走ってはいけませんが、司書については、8名にするという方向で考えたいと思います。そうしましょう。あと、人材が集まるかどうかはまた別の問題で、あまり先走るといけないのですが、これは決めないといけないことだと思います。一番良いのは、1校に1名だと思いますが、そういうわけにもいかない。少し先走るのですが、やはり、知りたい子どもたちが次に進めるような環境というのは、作らなければいけない。</p> <p>そうすると、やはり司書がいないといけない。司書がいないと教員なのかという話になりますが、なかなか難しいわけです。これは、ぜひやりたい。市が</p>

しないといけない。なぜそう考えるかという、色々ありますが、やはり次に進みたい、次のことを知りたいという子どもたちの好奇心について、次に行きたい時にどうしたら良いのか、何を読んだら良いのか、どこに本があるのか。自分で探すことはなかなか難しいので、そうした時に、何か一定のそういう役割がないといけない。

なんというか、子どもたちの一種の意欲を出していかないといけない。ここはすごく大事なポイントで、みんながみんなそうではないと思いますが、中には、そういった子が1人でも2人でも3人でもいれば、それに応えないといけない。大事なことだと思いますので、ぜひとも提案させていただきたい。

この提案について、この場にいる皆様の、総合教育会議の総意であれば、そういう方向に進むことで良いのではないのでしょうか。1校に1名と言われる方もあるかと思いますが、2校に1名というケースであれば、決して不可能なことではないと思います。考えていきたいと私は思いますが、皆様いかがですか。

(一同拍手)

教育長

今の市長のお話、とてもありがたいことだと思います。

司書がいてくださっても、何かと教員との連携が難しい部分もあります。1週間の中で来ていただく日が少ないと、学校でやりたいことがなかなか進まないと思いますし、もちろん、子どもへのレファレンス的な役割について、司書にやっていただける部分もあると思いますので、ありがたいです。

私の質問ですけれども、就学前施設の民間園の聞き取りをしてくださった内容を読むと、とても差があるように感じました。読み聞かせはしていただいているかもしれませんが、民間園に対する、絵本に囲まれて育つ子ども推進事業についても、10万、20万、40万円というように予算を上げてくださっていてありがたい話ですが、その中での貸出は年間3回ということで、年間3回ですか？と私は思いました。

民間園の貸出というか、子どもが家に持って帰る状況の難しさを回答しておられるところもあるので、そのあたりはどのように把握され、そして、今後どのように支援をしていこうと思われているのか、聞かせていただきたいと思いました。保護者の二極化の話も出ていますが、そのあたりはどのように対策を考えておられるのか、もう少し詳しく聞きたいと思います。

幼児課

民間園は、かなり園によって差があります。3回とさせていただいたことも、当然、今までからずっと継続されている園にとってみれば、3回というのも簡単にできてしまうラインですが、全くされてない園に、やはりまずは始めていただくということが大事だと考えましたので、まずは3回というハードルの設定にさせていただいたところです。

貸出の仕方という部分のサポートを考えていまして、既に、継続的にずっとされている園もありますので、こういった仕組みでされているのかということ、実施されていない園等にご紹介しながら、貸出を進めていきたいと思っています。

委員

資料を見せていただいた中で、例えば、小学校や中学校は、図書館の開館が毎日行われているのか、少し気になりました。

もう一つは、蔵書率の中で100%になっていない学校もやはりあるということ。これは、新しく、どんどんと本を入れ替えたりしているということと、それから、急激に生徒数がどんと増えたために、その割合として100%に及ばなかったのか。そういったところの分析について、お聞かせいただければありがたいです。

学校教育課

まず、開館についてですが、小学校は、毎日開館されている学校がほとんどです。ですが、中学校は、生徒指導上の課題など、毎日開館ができていない状況があると聞いております。週3回や、学年別で開館をされているという中学校もあります。また、司書が、中学校には週1回しか行けないということで、開館の際に教員がつくというところに、難しさがあると伺っております。

蔵書率については、先程おっしゃっていただいたように、新しい本をどんどん入れるためにも廃棄を進めているという事情がありますが、廃棄した後、その分を新しく買うということがまだできていないケースもあるのが現状です。ただ、学校によっては、今おっしゃっていただいたように、急激にクラス数が増え、その影響で少し蔵書率が低いということもあります。

課題として、反対に、150%といった蔵書があるところは、古いものが捨てられていないケースもありますので、今年度、学校司書と連携しながら、廃棄も進めつつ、その分どういったニーズがあるのか調べながら、新しく購入していきたいと考えております。

市長

話が少し戻ってしまうが、先程の民間園の話について。先走ってしまうかもしれないが、多分、幼児教育について、昔は、公立の幼稚園と保育園があり、保育園はそう多くない状況でした。多分、民間の幼稚園というのは、それぞれの主義・主張など、それぞれの特徴に応じて通っていて、そんな状況が20年ぐらい前の状況で。今では公立も増えて、隣接のこども園になって、幼保が一体になっている。こうなってくると、子どもたちにどういった環境を提供するかというのは、決してよそ事ではない状況だと思います。

そういう中では、やはり働きかけというか、要は、自分がやれという話で、自分自身がどうしようかという話ですが、読書環境については、我々は積極的に整え、「何かやってくださいね」というよりは、もう少し強力に、「やりまし

ようよ」「整えましょうよ」という方向で、色々なことを考えていかないといけないのではないかと。私は、個人的には思っております。

皆様、いかがでしょうか。ということで、「頼みます」ではなくて、もう少し強力に行ってもいいのではないのでしょうか。なぜかという、これも先走りだが、子どもたちがどういうものに触れられるかということ、一定、何か入口の広さみたいなものがあるのではないのでしょうか。もちろん、反応しない子もいるし、色々な子がいるとは思いますが、機会を作るといことはすごく大事なことだと思います。

委員

今、市長におっしゃっていただきましたが、10年前、11年程前でしょうか。武佐こども園にいた時に、もう図書室なんていうのは、すっかり埃まみれの玄関で、もう大変な状況で、絵本に触れるという機会では決してないということで、毎日、図書館から来ていただいて、「この本は良いから残して」など、園の全部の図書について勉強させていただいたことがあります。その時に、ふと、家に絵本を持って帰るけれど家読（うちどく）はどうなっているのかと考えて。お母さんたちが、「先生、子どもには薄い絵本を貸して。読むのが嫌やし。」と言っていて。読むことが嫌という前に、お母さんたち、お父さんたちが、小さい時に絵本を読んでもらう経験が少なかったということが分かったんです。

そうか、そんな経験が少ないお母さんたちが、子どもに読むはずがないということで。本日の「こすずめのぼうけん」はぐっと胸を打つようなストーリーテリングでしたが、参観のたびに、あのようにして、お母さんたちと子どもたちに読んでもらったんです。そうすると、1冊読んでもらうと、親の姿勢が良くなって。2冊目になると、背筋がすーっと伸びていく。3冊目になると、前のめりで読んでいます。心の中が感動してくる。絵本の魅力に関しては、お母さんたちが体験するということが大事だなと思いました。

その体験は、「今日読んでもらった絵本を借りておいでや」という言葉に繋がりが、子どもに、「借りておいでや、貸してもらっておいでや」と言うことで、自分が読みたくなる。貸出の仕方など、そういう支援ではなく、お母さんたち、市民をどう育てるのかということが大事だということ、私はあの時に思いました。

図書館長も言ってくださいましたが、武佐学区の読書支援計画の中に、そのことが書かれています。結局、読書の冊数が増えてくる一番の要因というのは、やはり、親たちに読書の喜び、絵本の世界をどれほど知ってもらおうかということが一番大事で、その成果が書かれています。この成果というのは、就学前も、それから小学校も中学校も、高校も、市民全体に潤うようにということで。以前、沖島での様子がテレビで流れた時、おじいさん、おばあさんが腰を屈めながら1冊ずつ見ている時に、司書が「これよろしいで」「これもよろしいで」と言っていて。人との関係性、信頼関係を結びながら、沖島との絆を深めながら

読書の良さを伝えていて。

本日も、子どもたちに対して、館長が同じようにして。館長が背表紙だけを見て「これかな？これはね、こういうお話で…」と説明し、子どもが「これ借りる！」と言っていて。そうした司書の誘い水がどれほどあるかによって、子どもたちがしっかりと目を開いていく。武佐学区への支援というのは、全てにわたって網羅された報告書だと思います。私立や公立ということは関係なく、絵本の世界をどのように私たちが提供できるかということ、感動を与えられるかということ。本日、私は、「こすずめのぼうけん」で、本当に感動してしまっ。そういう感動を、どの世代もみんなが味わっていくことだと感じています。市長のお話を受けて、そう思いました。

事務局

お話の中でも、保護者の読書習慣という話題が出ましたので、もしよろしければ、保護者の代表としてご参加いただいている委員から、何かありましたら。

委員

私は読書があまり好きな方ではなかったので、自分の子どもにはそのようになってほしくないと、生まれたときから絵本を読んでいました。また、私の子どもは公立の幼稚園に通っていらしたので、毎週、絵本を借りる日があり、子どもが借りてきた絵本を読んであげ、その感想を少し書く取組がありました。

聞き取りの資料のところ、「保護者は疲れている」「忙しい」など書いてありましたが、それは本当にその通りだと思います。仕事をして帰ってきて、次は休む間もなく夕食の支度などをして、ゆっくりできるのは子どもが寝てからです。

それは凄く分かりますが、例えば、5分でも良いので、寝る前に膝の上に子どもを座らせてであったり、布団の中に入って、絵本を読んであげてほしいと思います。そうすることで、子どもとスキンシップも取れますし、子どももお母さんに読んでもらおうとすごく嬉しくて、次の日も頑張れるのではないかと思います。

私もそのように思い、毎日寝る前に必ず読み聞かせを続けていました。その効果もあり、中学生の息子は読書が好きで、学校から疲れて帰ってきてやることはあっても、本を1冊読み、そこで心を休めています。親が、5分でも良いから読み聞かせをしてあげたい。そういう気持ちになってもらうことが一番だと思います。

司書についても、学校図書館に司書がいれば、子どもたちが本を借りに来たときに「こういう本を探している」「こういう本は、どこにあるの？」と聞くことができるので、子どもたちも本に触れやすくなります。これからどんどん増えていくと良いと思います。

委員

私の場合は、上の娘が中学生の時に、夏休みになったら期間中に150冊読むと言って、実際、夏休みが終わって見たら、180冊読んでいたということがありました。うちの子は本当に本が好きで、そういう部分は親に似なくて良

かったと思っているのですが、先程、学校司書に関しては、市長が8名にする
とおっしゃってくださったので、私は凄く安心しています。

けれど、現状、中学校は、週1回、学校司書が来てくださっていますが、小
学校では、どれぐらいの頻度で行ってくださっているのか。この点をお聞きし
たいのが一つと、あと、学校司書が8名になれば、中学校の週1回について、
頻度を増やしていただけるとありがたいと思っています。

というのは、不読率を見ておきますと、中学校では、不読率が約14%とい
うことなので、おそらくは、司書が行く頻度が上がれば、この不読率という部
分も下がってくるのではないかなという思いがありましたので、発言させてい
ただきました。

学校教育課

小学校については、希望に合わせて週1回か2回行っていただいている状態
です。中学校は週1回ということで、整理を中心にしていただいています。ま
た、朝の読書は、どの中学校でも熱心に取り組んでいただいていますので、そ
ちらで、子どもが読みたくなる本の選書ということもしてくださっています。

今、不読率の話が出ましたが、家で読んでいないものとして数値が出ている
ので、全然読んでいないかのように見えます。しかし、朝の読書は、中学校で
毎日取り組んでいるので、学校では読書の時間を確保しています。家に帰っ
てまではなかなか読めていない、という状況があるということも、補足させて
いただきます。

教育長

就学前施設の子どもたちを見ると、子どもたちは、本当に本が好きなのだ
ということを思いますし、お話を聞くという、そういう姿勢を感じます。各園で
読み聞かせをしてくださっているのも、そうした姿勢が育っているのかと思
います。図書館による武佐学区への支援も、子どもだけではなくて、先程、委員
のお話にもありましたように、支援の中で、保護者自身が本を好きになった
ということで、読書率が上がっていったという経過もあると思っています。

それが小学校になるとどうなるのかということですが、小学校の先生は、一
文字ずつ教えています。2～3日程前に授業を見ましたが、まだ、ひらがなの
「れ」を覚えておられました。まだ全部教えきっていません。けれど、子ども
たちには、好きな本を読んだらいいよと言って、学級文庫のところに行かせて
読ませています。好きな本がない子どもは、ノートに絵を描いたりしていま
した。時間がある時には、そういうことをされています。あれほど読み聞かせが
好きな子どもたちに、もう少し時間があるのであれば、なぜ先生は読み聞かせ
をしないのか。私は、昨年からずっとそういう話をしています。

教師自身が、子どもたちに、どのように本の良さを伝えられるかというこ
とは、大事なことだと思っています。文字の学習をすれば、すぐに本が読めるわ

けではありません。そのあたり、もう少し認識を新たにしてほしいとずっと言っていますが、先生方は、毎日の授業があり授業をどうするかという点に、まずは自分の力を置いておられるので、そこまでなかなかいないという現実があり、それを変えたいと思っています。それを続けていきたいという思いがあります。教員自身の本に対する意識、読書環境を整える意識を変えていきたいと思っています。

先程、学校図書館の話も出ましたが、子どもたちの近くには学級文庫というものがあります。この学級文庫が、古いものではなく、本日はちっこぶつ号ミニのように、厳選されたとまではいかななくても、それに近い本があるような状況になればと思いますので、読書環境を整えていくことが大事だと思っています。そうすると、ふとした時に手に取るということもできますし、担任の呼びかけや、武佐小学校では、武佐学区の読書支援の話もありました。子どもたちが何か一つ本を持っていて、机の近くに1冊置いて、授業が終わったら、1人1冊、ぱっと本を取って読める、そんな環境を作っていく指導をしていると聞いていますけれど、そんな形でずっと進んでいくと良いと思っています。

また、学校司書の話に戻りますが、学校司書という専門性を持った方が来てくださることが理想的な形ですが、学校司書もそうですし、それから各学校の図書館担当の先生にも、少しスキルを上げてもらいたいと思っています。公立図書館には高い専門性がありますので、各学校や、学校司書、先生方に、そのノウハウを伝えていただきたいと思っています。

6月初めに、他市で、公立図書館や学校司書が、スキルアップのために色々情報交換をされているところに、学校教育課と生涯学習課、図書館の方々に研修に行ってくださいましたので、そういう形で、司書、そして学校の教員の意識の変革とスキルアップなどを進めていかなければならないと思っています。情報共有等をしていただきながら、お願いしたいと思います。

事務局

今のお話、教員の皆様にとっての意識改革ということになると、生涯学習課や学校教育課などにまたがり連携していくような話になるかと思います。もし両課の皆様から何かありましたらお願いいたします。

学校教育課

司書の研修、それから図書館担当教員のスキルアップということですが、考えていることとしまして、昨年度から、読書の研修会を夏休みに開催をしております。昨年度は、学校司書や読書ボランティアの方にメインに集まっていたいただき、講演を聞いていただいた後、交流会をさせていただきました。今年度は、教員のスキルアップということで、図書館教育部会というものがありますので、小・中学校の教員中心に集まっていたいただき、学校図書館のあり方、学校司書の役割、司書教諭の役割というあたりを、講師を招いて研修しようと考えております。

また、毎月、学校司書研修ということで、月1回は司書に集まっていただき、情報共有や、司書のスキルアップのための研修をしております。ブックトークを互いに見せ合ったり、新しい読書推進のための取組の紹介をし合ったりということもしています。この研修に、公立図書館の司書にも来ていただき、アドバイスをしていただく時間も取っております。

やはり、教員自身が読書を楽しみ、本の良さというものを伝えていくことが大事かと思っておりますので、初めに申し上げたモデル校での研究授業などを通して、スキルアップに努めたいと考えているところです。

生涯学習課

生涯学習課でも、学校教育課と連携をしながら、学校の先生方へのスキルアップについて取り組んでいきたいと思っております。先程、教育長が言われました、就学前における子どもたちへの読み聞かせから、小学校期の子どもたちが自分で本を選ぶというところ、この接続について、よりうまくいくように。先程少しお話をさせていただきましたが、発達段階に合わせた本の選び方であるとか、生涯学習に関連した目標など、それは個人にもよるものではありませんけれど、そういったことも考えていけたらということは、少し思っております。

そのあたりについても、図書館と連携をしながら、この時期にはどういう本をどういう力で読むと結果として良いか、どのように選ぶと良いか、自分で選ぶためにはどういった力が必要なのかというあたりも、読書推進委員会で話題にさせていただければと思っております。

委員

教員が図書館担当となった時に、専門的な部分というのはなかなか学ぶ機会がなかったり、そうした研修等に参加できなかったりということが、今まではありました。

私は、近江八幡図書館で、夏休み期間中の1週間、職場体験を経験したことがあります。その時は、各校から希望者があれば、色々とところで体験を行うということを夏休みにされていましたので、私はちょうど本が好きでしたので、近江八幡図書館に行かせていただきました。その時に、当然、お客様への対応もしましたけれど、本の選定であるとか、傷んだ本を直すであるとか、アンケートもさせていただきました。

先生方の力量を高めるということは、なかなか難しく、司書教諭の資格を持っている方もいますが、資格を持っている方が、どれほど学校図書館で活躍されているかという、活躍している場面をあまり見たことがありません。せっかく資格をお持ちなので、一度集めるなどして、こんな研修ができますよということを会議室の中ではなく、どこかの図書館の中で、基本的な書架の配置の仕方であるとか、分類の仕方であるとか、そうしたことができれば良いのではないかと。私でしたら、行きたいと思っております。案として、一考いただければと

思います。

委員

子どもたちに、毎日、読書の時間をどのように作っていったらいいかということですが、この前、学校の経営管理計画を全ていただきましたので、それを見せていただくと、しっかりと読書の時間を確保して位置付けている学校と、そうでない学校があります。私としては、そこは責めてはいけないと思います。

先程、市長から「国はどこまで考えてくれているのか」と発言がありました。が、読書については、そこだけを見ると、「もっとしてあげたら」「もっともっと」と思いますが、学習指導要領を見ると、これだけ多くのことを教えながら、先生方には働き方改革もあり、それはもう本当に重たい状況で。そんな中、図書館に行ってくださいと言うことは、時間もなく、難しいと思います。

ただ、これだけ考えるとそうなのですが、読書によって本当に大事なことがあります。読み聞かせでは、子どもたちが話を聞きながらイメージしている姿に、話を聞いて想像する力、あるいは語彙力、表現力、理解力といった力がどんどんついてくるのが、1冊読んでいただいている間に分かってきます。

やはり、「読書で育つ」ということがはっきりしていることを考えると、学校の経営管理計画の中に位置付けるということ、朝の10分間、5分間、毎日とは言いませんので、週に1回でも読書の時間を確保していくということ、ぜひ、小学校、中学校、あるいは就学前でできればと思います。就学前は必ず毎日読書をしてくださっているのが大丈夫ですが、小学校から中学校、全ての学校で行っていく。どの子にも機会を与えていただくというか、この子には与える、この子には与えない、ではなくて、どの子にも与えてもらいたいということ、を思いながら、先程から皆様のお話を聞かせていただきました。

それから、教職員ですが、私が初めて園長になった時、誕生日には、みんなに絵本をプレゼントしようと思い、今年の絵本を何にするかという時に、宙ぶらりんの考え方ではなく、これから図書館に、みんなで行こうと。1時間以内に、自分が一番推薦したい本を1冊ずつ選んできて、それをプレゼンし合って、みんなで決めようということ、を、毎年の恒例にしていました。

経営管理の中でどのように時間を確保していくのか、時間がない中でどのように時間を生み出していくのかということも管理職の役割であると思いますので、そういうことも一つではないかと、今思い出しました。

先程から、色々な課の方に言っていたら、生涯学習課からは、これから、子ども読書活動推進計画の見直しがあるということも言っていただきましたが、この見直しの時にこそ、関係課である4課だけではなく、福祉も含めて。例えば、コミュニティセンターでの子ども食堂では、その前には必ず本を読むということをしています。活動の前には必ず本を読むというのがコミュニティセンターのやり方ですと、武佐に行った時に言っておられました。

そうすると、地域の皆様にも、どのようにご理解をいただくか、「早寝・早起き・あき・し・ど・う」とは言うものの、具体的にはどのようにコミュニティセンターではしていくのか、あるいは子どもセンターでしていくのか、更に言うと、放課後児童クラブも毎日の活動ですので、そういったクラブにおいてどのようにしていただくのかということを考え、地域のまちづくり協議会も含めるとなると、市全体の推進計画として、単なる教育委員会だけの推進計画ではなく、つまり、子どもの読書だけではなく、市民読書という観点から推進計画を考え、市全体で、読書への意識、働きかけを考えていくということをしてはいかがでしょうか。

そうすることで、単に教育委員会だけではなく、生涯学習、おじいさん、おばあさん、赤ちゃんのことを考える中で、市全体で図書館のことを考えようということで、予算も少し膨らんでいくのではないかと。市民ぐるみの取組として考えると、一昨年度に、教育大綱が見直しされましたが、市民が育つということまでいかないかと本物になっていかないのではないかと。子どもが育つ、親が育つ、そして市民が育つということは、文言として書かれている通りですが、そこまでいくということに策定の意味があったと思いますし、そのようになってくると思います。このことを、全体に図っていったらどうかということをご提案させていただき、お考えいただければ嬉しいと思いました。

教育長

今、委員がおっしゃってくださった、市民の読書計画という観点は、実は、第2次近江八幡市子ども読書活動推進計画において、市民読書月間として、11月は、近江八幡市における読書月間だということが、22ページに書いてあります。その意識が、残念ながら私自身になかったので、おっしゃる通りだと思いますし、市民全体、子どもセンター、学童もそうです。学童でアンケートを取るということを、生涯学習課でしていただけると聞いています。学童における読書環境はどうなっているのかという点も、アンケートを取りながら考えていかなければならないと思います。

家に帰ってから、家の方に読んでもらう時間、その時間も大切ですし、学童にいる時間も子どもたちにとっては結構長いので、色々な場面において、子どもたちが本を手にとれる、その機会を作っていくということは、私たちの役割でもあると思いますし、自分自身、子ども自身が、本を読もうという気持ちになるように誘うという取組も必要だと思います。そういう部分もまた充実していかなければならないと思いますので、それぞれの立場においてしていかなければならないと思っています。

事務局

大人も子どもも読書を通じて、心豊かになっていこうということだと思いますので、私も次回までにはもう少し読書をしたいと思っています。だいぶ時間も迫ってきましたので、最後に一つ、何か言いもらしたことなどありましたら、ご発言いただければと思います。

市長

読書というのは、機会だと思っています。ですので、当然、そのことに引っ掛かる人もいれば、引っ掛からない人もいます。できるだけ多くの機会を創出するという、引っ掛かった人に、その次どのようにしてその引っ掛かりを広げてあげられるのかということ。言ってみると、そういう話だと思います。

確かに、委員がおっしゃるように、市民全体がそういう方向になって、引っ掛かる、引っ掛からないはありますが、引っ掛からない人は仕方がないとして、できるだけ機会を広げていって、みんなで作り上げていくことができれば良いと思います。そこから色々な子どもたちが育ってくれればと思います。

私の感想としては、全体を見て、できるだけ機会を作れるようにしたいと。やはり、役所なので、縦割りで、その担当はそこ、この担当はここ、ということがありますが、そうではなく、色々なところで色々なものを作り上げることができれば良いと思います。最後に、教育長にまとめていただければと思います。

委員

教育長のまとめの前に、もう一つだけ。この10年、子ども読書活動推進計画を進めてきたわけですけど、昔、私たちが小さい時には、伴家住宅の図書館でした。新町にあり、真っ暗で、歩くと足音がトコトコとするようなところで、図書の環境ではなかったという時代から、この10年、20年、坂を登ってきて。武佐と馬淵学区の貸出冊数が少ない、借りていない、8号線から向こうの人は借りていないと言われてきましたが、それは、図書館に行きたくても行けない状況のためでした。それが、バスによってできるようになってきました。

物凄く大きな可能性を実現してきてくれたということを考えると、この大きなうねりは近江八幡の誇りとするもので、読書環境ができてきたということだと思っています。どこに行っても、そのことを言っています。この前、はちっこぶっく号ミニのお披露目式に行き、子どもたちが「わあ〜」と言って、歓声を上げてそこへ近づいていく様子に、絵本に対する扉が大きく開かれてきたなど。近江八幡市は良いなど、私は物凄く思っています。そのことを凄く言いたかったんです。

そして、みんなが作り上げてきたものを、いかに効果的に、有効的に。更には、子どもたち一人一人に、あるいは市民一人一人にとって、冊数として多くなるとなると良いことで、そのためにはどういう形にしたら良いのか。今ある資源を更に最大限生かすために、みんなで工夫し、情熱を持って頑張っていきたいと思いつつ、行政の皆様へ感謝をしながら、お伝えしたかったんです。

教育長

市長も、子どもの時から読書が好きというお話を以前に伺いましたが…。

市長

私は、たまたま目の前にあったからで。

教育長

目の前にあったとおっしゃいますが、新町の図書館にも、ご自分で行っておられたということで。私はどうしていたかという、家は島学区で、バスに乗って、新町の図書館に週2回行っていました。私は読み物しか興味がないのでこのように育ったのですが、島小学校の図書館に読む物がなくなりまして。推理小説など、読み物が好きだったので、それからは新町の図書館に行っていました。

そうしたことを経て、自分が、今こういう形でここにいるのだと思っています。それと、絵本の読み聞かせは、私も忙しい仕事をしていたので、あまりできていないのですが、何年間かしていました。子どもがその時のことを覚えていて、子ども自身が親になって、自分の子どもが絵本に対して興味を持った時に思い出して、やはりこれは大切だと思って、家で読み聞かせしようと言ってくれています。

そういう繋がりがやはり大事だと思いますので、先程、委員がおっしゃったように、新町の図書館が今ようになり、今は児童書の更新率が令和3年度は4.7%、令和4年度は4.9%、そのことが凄いと思いました。それだけ市が予算を投入しているということで、そのことを聞かせてもらい、本当に嬉しいことだと思っています。

学校図書館も更新をしないといけないと思いますので、学校図書館の更新率も気になるところで、そこまではなかなか難しいことかもしれませんが、実際、皆様の力が集まることでこのような環境を作ることができているわけですので、これからも続けていきたいと思います。

各課の壁を取りながら、連携し、協働できるように。読書の推進、子どもの読書の推進。そして、子どもを育てる親、市民の皆様にも関わっていただき、推進できるように、皆様の力を集めていただきたいと思います。今後もよろしく願いいたします。

事務局

皆様、貴重なご意見をたくさんいただきまして、どうもありがとうございました。皆様にとって、何かお持ち帰りいただけるものがあれば幸いです。

それでは、議題（2）として、事務局から何かありましたらお願いいたします。

（2）その他

事務局

本日は、皆様ありがとうございました。議事録につきましては、後日共有させていただきますとともに、市のホームページにて公開することになります。

また、第2回の総合教育会議につきましては、現在、開催日、議題ともに未定でございますが、議題のご希望等がございましたら、後日で構いませんので、ご提案いただきますようお願いいたします。

4. 閉 会

事務局

最後に、委員の皆様から、何か連絡事項等はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、令和5年度 第1回 近江八幡市総合教育会議につきましては、これで終了させていただきたいと思っております。活発な議論を賜り、誠にありがとうございました。

委員の皆様には、本市の教育行政の推進のために、引き続きご協力いただきますようお願い申し上げます。

【終了時刻】 11：30

以上